

- 新約聖書にはイエス様の行われた奇跡のお話がいくつも記されています。ドイツ語の聖書ではイエス様の「奇跡」には不思議な出来事を指す「Mirakel」ではなく、「Wunder」が用いられます。つまり「奇跡」とはただ摩訶不思議な出来事を意味するのではなく、神の働きを知らされた「驚きの出来事」を指しているのです。そしてそのような「奇跡」は往々にして自らの小ささや無力さを覚える時に私たちに知らされるものです。
- 本日の聖書は「パンの奇跡」の話です。イエス様が5つのパンと2匹の魚で、5000人もの人を満足させたというこのお話は全ての福音書に記されています。この奇跡は、深刻な病や障がいを持った人を癒されたイエス様の他の奇跡とは異なり、イエス様があえて行なう必要もなかった奇跡です。つまりこれは弟子たちに何か大切な事を教えようとしてされた奇跡だと受け止められるのです。
- 今日の箇所最初に「使徒たちは帰って来て、自分たちの行ったことをみなイエスに告げた」と記しています。同じルカが書いた使徒言行録にはパウロの宣教報告がありますが、そこには「神が自分達と共にいて行われたことをことごとく報告した。」と二度繰り返して記されています。弟子たちは「神の働き」ではなく、「私はこんな事もした、あんな事もできた」と自分たちの行った事を報告したのかもしれませんが。そんな弟子たちに、イエス様はこのパンの奇跡を通して、主と共にあって働かれたのだという驚きを経験させ、自分達の手には負えないと思ってしまうような状況の中でこそ「奇跡」は与えられるのだということを教えようとしたのではないのでしょうか。そして、初代教会の人々は貧しさや弱さを覚えつつも信仰者の輪を作り宣教に励む中で、このお話に真実を見出し、喜びをもってこれを語り伝えていたのだと思います。
- 私たちはこの世の大きな課題を前にした時に、自らの持っている能力や財力が小さいことを嘆きます。しかし、そのような私たちだからこそ、神の御業を驚き知る可能性を常に持っているのです。今日のイエス様の言葉「さあ、あなたが彼らに食べ物を与えなさい」という言葉は私たちに語りかけられています。今週も困難な事柄を覚え熱心に祈り、それぞれの賜物を主に差し出し、豊かに祝福していただき、この世に仕える働きを成してまいりましょう。